

すべての特別会計は前年度より増！ 伸び続ける医療費！

国民健康保険事業、後期高齢者医療事業、介護保険事業を合わせた決算額は、合計68億2,431万円で前年度比104.6%となっています。ここ数年の推移で見た場合も後期高齢者医療事業がスタートした平成20年度から3年連続で増え続けていることから、医療・介護費の増加は町の大きな財政課題となっています。

特別会計名	概要	歳入決算額	歳出決算額
国民健康保険事業	国民健康保険に加入している人が、万一の病気やケガの場合に医療機関にかかる際の医療費の補助などを支援する事業	40億5,260万円	38億2,155万円
後期高齢者医療事業	75歳以上の高齢者と60歳～74歳までで一定の障害のある方が安心して医療を受けられるように支援する事業	6億9,671万円	6億7,707万円
介護保険事業	介護を社会全体で支え、必要な方に介護サービスを提供し、全ての高齢者の方に介護予防や生活支援を行う事業	23億4,713万円	23億2,569万円
下水道事業	大雨による浸水や汚水により川や海が汚れることなどから守るための下水道を整備する事業	14億4,655万円	14億2,676万円

国民健康保険事業

歳入は主に国民健康保険税の税率・税額等の見直しによる増、歳出は主に療養給付費・療養費・高額医療費の増となっています。被保険者数は10,047人で、1人あたりの給付費は前年度より1万4,303円多い25万6,199円でした。また、歳入に占める保険税の割合は23.4%でした。

後期高齢者医療事業

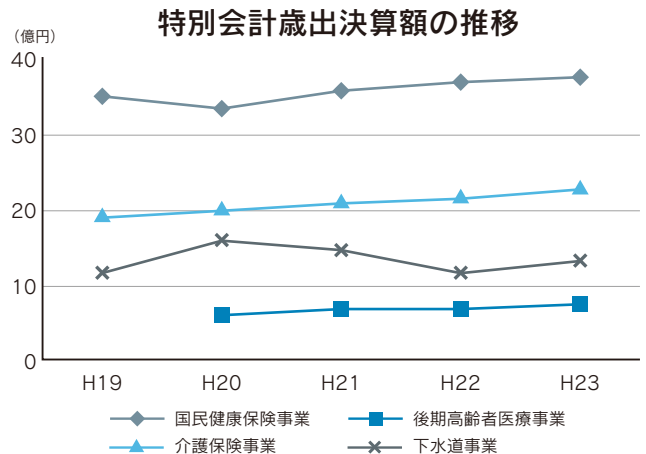
歳入は主に被保険者数の増加による保険料の増、歳出は主に後期高齢者医療広域連合への納付金の増となっています。被保険者数は前年度より135人多い4,232人でした。また、歳入に占める保険料の割合は47.1%でした。

介護保険事業

歳入は主に介護保険料第1号被保険者数が増えたことに伴う保険料の増、歳出は主に介護サービス利用件数が増加したことに伴う保険給付費の増となっています。被保険者数は、前年度より221人多い9,134人でした。また、歳入に占める保険料の割合は19.9%でした。

下水道事業

歳入は主に建設工事費が増えたことによる国庫支出金の増、歳出も歳入と同様に建設工事費の増による事業費の増となっています。23年度末現在の公共下水道の普及率は56.0%、接続率は75.1%となっています。



町の一般会計を家庭の家計に例えてみましょう

一般会計決算額を年収500万円の家庭の年間家計簿に置き換えてみると…？

構成比は決算額の割合

収入			支出		
	決算	構成比		決算	構成比
給与(町税)	253万円	50.6%	生活費(人件費・物件費)	188万円	39.1%
実家からの援助 (交付税・交付金・国庫補助金)	136万円	27.2%	息子への仕送り(繰出金)	80万円	16.5%
家賃収入(財産収入等)	37万円	7.4%	ローン返済(公債費)	47万円	9.7%
借金(町債)	31万円	6.1%	電化製品購入(普通建設事業費)	52万円	10.7%
その他(繰越金・繰入金)	43万円	8.7%	医療費(扶助費)	68万円	14.1%
			貯金(積立金)	25万円	5.3%
			税金・交際費・投資など (補助費等)	22万円	4.6%
合計	500万円	100%	合計	482万円	100%